

Casting Our Eyes
on the Future

視線はまっすぐ未来へ



Financial Report

第92期年次報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日



Ahresty
株式会社 アーレスティ

証券コード：5852

Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research (研究・開発)、Service (サービス)、Technology (技術) において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。

なお、“Casting” は、“投げかける” という意味の他に、当社の主要事業である“Die Casting” の意味も込めています。

タグライン：タグラインは、アーレスティブランド、企業理念を社内外へ発信する究極的なメッセージであり、コーポレートシンボルとセットで使われる言葉です。

製品別概要

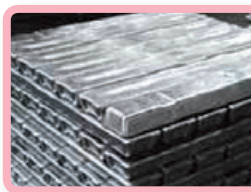


ダイカスト事業

高い技術を駆使し、自動車のエンジン、足回り、ボディなどのダイカスト製品を製造・販売しています。

アルミニウム事業

缶、サッシ、自動車スクラップなど、多様な原料をもとに、高品質のアルミニウム合金地金を製造・販売しています。



完成品事業

コンピュータールーム、クリーンルームなどの建築用床材料等を製造・販売しています。



[a:resti]

これからは、より質の高い
Research、Service、Technologyを
追求していきます。

アーレスティはR・S・T、Research、Service、Technologyこれらの三つの言葉の統合ですが、Rは単に研究・開発だけでなく、どうしたらもっとお客様のお役に立てるかの創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点で、そしてTはこのRとSをささえる知識と技術を考えています。この社名に込められた企業理念を大切に生かし、様々な製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

CONTENTS

株主の皆様へ	2
経営基本方針	3
コンプライアンス基本方針	4
環境方針	4
事業の概況	5
事業別の概況	6
連結財務諸表	7～8
トピックス	9
株式情報・会社の概要・株主メモ	10

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、第92期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の事業の概要につきまして、ご報告いたします。

今後とも事業の発展に全力を尽くしてまいる所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月



代表取締役社長

高橋 新

経営
基本方針

常に生きいきと活動し理論と実験と創意と工夫を尊重して、
品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう

(1) 経営の基本方針

当社の社名アーレスティは、ResearchのR、ServiceのS、TechnologyのTを続けて読んだものであります。Researchとは絶えることのない新技術・新市場・新しい販売方法の開発・研究調査、Serviceとは人と人とのふれあいのなかで本当に行き届いた温かいサービス、Technologyとは世の中に役立つ真によいものをハードとソフトも含めて創ってゆく技術を意味します。このRとSとTは、お互いに深く支え合いながら、お互いをよりすばらしいものへと磨きあっていくという有機的な関係にあります。私たちは、このような考えのもとにResearch、Service、Technologyを統合した思想を企業理念として「アーレスティ」を社名としております。

当社の長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ10年ビジョン」では『『すべてのステークホルダーから信頼されるグローバルトップ企業』をめざす』ことを基本の方針とし、

顧客・株主/投資家・従業員・取引先・社会の5つの利害関係者の視点に立って「信頼される企業」となるための方針を定めておりましたが、このビジョンの基本的な考え方を継承しつつ、ものづくりに焦点を当てた新たな「アーレスティ10年ビジョン」を2012年12月に策定し、「ダイカストを核としたグローバルTOP企業」となることを基本方針に、「ものづくりを究め、ものづくりを進化させる」ことをスローガンとしてあるべき姿を描き、具体的な指針・手段として方針を定めております。

この10年ビジョンをベースに中期経営方針（1315 3ヵ年アーレスティ方針）では、より具体的な施策・目標値を設定し、更に部門方針へと展開して全社的な活動を推進してまいります。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主をはじめとするすべてのステークホルダーに対する経営責任と説明責任を明確にするとともに、高い透明性を伴った経営体制を確立することで、当社グループ全体での収益力の拡大と企業価値の増大を目指しております。さらには内部統制システムとリスク管理体制を充実させ、グルー

プ子会社の事業活動についても管理・監督を行う経営システムの構築を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針と考え、重要な経営課題であると認識しております。

コンプライアンス基本方針

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し役員及び従業員は、自らの行動又は業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- 1 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- 2 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- 3 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- 4 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- 5 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- 6 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- 7 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- 8 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- 9 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- 10 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。

環境方針

かけがえのない地球を守るのは私たちの大切な役割です。株式会社アーレスティの環境への取組みをご紹介します。

- 1 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
- 2 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取組みます。
- 3 私たちは特に次の事項について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。
 - ①大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ②廃棄物の再資源化100%を維持します。
 - ③廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 - ④CO₂排出の抑制をはかり、地球温暖化防止への配慮をします。
 - ⑤環境に配慮した製品および商品の開発・設計に取組みます。
- 4 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的にを行います。
- 5 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～

事業の概況

Financial Highlights

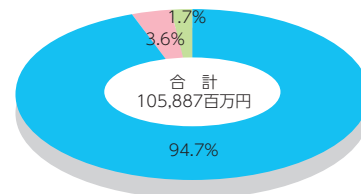
■企業集団の事業の経過および成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、震災復興需要を背景に回復基調がみられたものの、世界景気の減速等を背景に、輸出の減少や設備投資が弱含みで推移する等、全体としては弱い動きとなりました。しかしながら、政権交代を機に、輸出環境の改善や経済対策・金融政策への期待感から、明るい兆しも見え始めました。海外においては、米国は弱めの回復テンポではありましたが、しばらくはこのまま穏やかな回復傾向は続くものと思われます。中国・インドでは拡大のテンポが一時鈍化しましたが、ようやく安定化し、やや持ち直す傾向となりました。

このような環境の中、当社グループではグローバルでのダイカスト需要増に対応するため、北米及びアジアの生産能力を拡充する一方、国内では中長期的な国内ダイカスト需要の減少に対応するため、浜松工場と豊橋工場を東海工場として統合を進め、平成25年3月をもって集約を完了しました。

当連結会計年度の業績については、国内での売上が減少したものの、海外での売上が増加したことにより、売上高は105,887百万円（前期比2.0%増）となりました。収益面においては、主に国内での売上減少に伴う影響により営業利益は997百万円（前期比27.0%減）、経常利益は711百万円（前期比20.0%減）、当期純損失は167百万円（前期は当期純利益1,420百万円）となりました。

■事業別売上上の状況

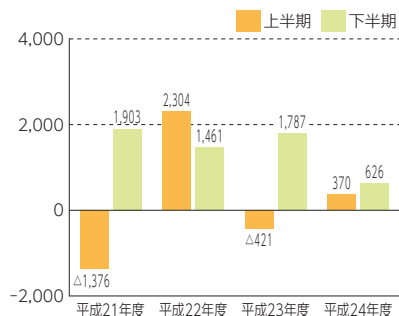


ダイカスト	100,254百万円
アルミニウム	3,840百万円
完成品	1,793百万円

■業績の推移 (連結)

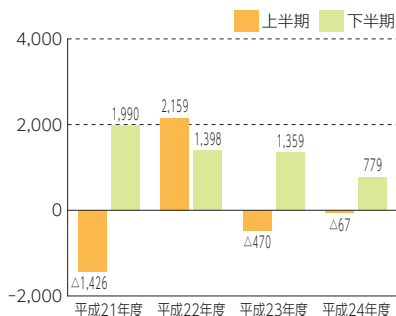
■営業利益

(単位:百万円)



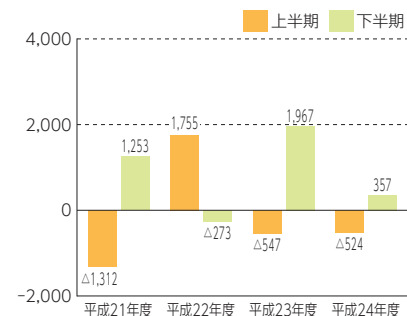
■経常利益

(単位:百万円)



■当期純利益

(単位:百万円)



事業別の概況

Financial Highlights

ダイカスト事業

① ダイカスト事業 日本

国内では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、上期はエコカー補助金の効果による販売増加や東日本大震災の復興需要等に支えられ生産が増加しましたが、下期はエコカー補助金の終了及びアジアや欧州向けを中心とした自動車輸出減少の影響等により生産が減少しました。当社においては、主に輸出向け製品の受注減少等の影響を受け、売上高は60,630百万円（前期比6.9%減）となりました。収益面においては、売上高の減少及び東海工場の集約に伴う一時的な費用増の影響等によりセグメントの利益は601百万円（前期比58.9%減）となりました。

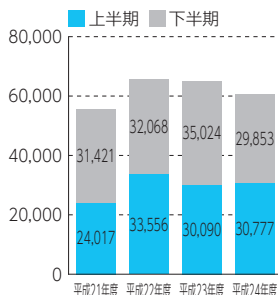
② ダイカスト事業 北米

北米では、東日本大震災の影響により減少した主要顧客からの受注が回復し、アメリカでの緩やかな景気回復の下、自動車販売も好調であることから受注が増加し、売上高は22,886百万円（前期比22.0%増）となりました。収益面においては、受注増の影響や前期にメキシコで発生していた生産対応の遅れによる費用を削減したこと等により、セグメントの利益は744百万円（前期比136.7%増）となりました。

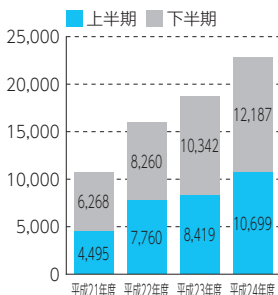
③ ダイカスト事業 アジア

アジアでは、平成23年夏より中国合肥における新拠点が操業開始した影響に加え、中国広州及びインドにおいても新規製品の量産が本格化したことにより受注が増加し、アジアでの売上高は16,736百万円（前期比22.0%増）となりました。収益面においては、インド及び合肥での先行投資による固定費の増加影響等によりセグメントの損失は521百万円（前期はセグメントの損失504百万円）となりました。

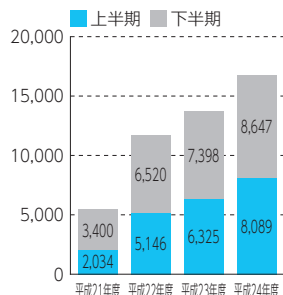
■売上高 日本（連結）
（単位：百万円）



■売上高 北米（連結）
（単位：百万円）



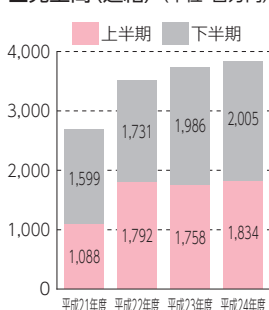
■売上高 アジア（連結）
（単位：百万円）



アルミニウム事業

アルミニウム事業においては、受注量は年間を通じて堅調に推移したことにより、売上高は3,840百万円（前期比2.6%増）となりました。収益面においては、主として円高を原因とした市況販売価格の低迷があったものの、受注増や原価低減活動による一定の効果が得られたことにより、セグメントの利益は50百万円（前期はセグメントの損失42百万円）となりました。

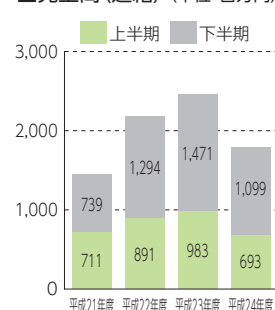
■売上高（連結）（単位：百万円）



完成品事業

完成品事業においては、国内シェアは増加したものの、主要販売先である半導体関連企業の設備投資が低調であることに加え、通信会社のデータセンター向け物件の需要が前期に比べ減少したこと等により、売上高は1,793百万円（前期比27.0%減）となりました。収益面においては、売上減少の影響があったものの原価低減活動の成果により、セグメントの利益は78百万円（前期比8.4%増）となりました。

■売上高（連結）（単位：百万円）



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期 平成25年3月31日現在	前 期 平成24年3月31日現在
資 産 の 部		
流 動 資 産	37,153	44,486
現 金 及 び 預 金	6,087	7,358
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	18,620	24,541
商 品 及 び 製 品	2,777	2,153
仕 掛 品	3,999	3,826
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	2,641	2,657
繰 延 税 金 資 産	1,255	2,138
そ の 他	1,772	1,811
貸 倒 引 当 金	△ 1	△ 1
固 定 資 産	73,599	60,721
有 形 固 定 資 産	65,150	54,135
建 物 及 び 構 築 物 （ 純 額 ）	11,749	10,433
機 械 装 置 及 び 運 搬 具 （ 純 額 ）	30,171	25,228
工 具 、 器 具 及 び 備 品 （ 純 額 ）	4,515	3,974
土 地	5,743	5,716
リ ー ス 資 産 （ 純 額 ）	681	35
建 設 仮 勘 定	12,289	8,747
無 形 固 定 資 産	984	901
投 資 そ の 他 の 資 産	7,464	5,685
投 資 有 価 証 券	5,956	5,150
繰 延 税 金 資 産	1,258	255
そ の 他	251	280
貸 倒 引 当 金	△ 1	△ 1
資 産 合 計	110,752	105,208

科 目	当 期 平成25年3月31日現在	前 期 平成24年3月31日現在
負 債 の 部		
流 動 負 債	40,143	42,166
支 払 手 形 及 び 買 掛 金	12,418	18,653
電 子 記 録 債 務	3,583	－
短 期 借 入 金	6,315	4,541
1 年 内 返 済 予 定 の 長 期 借 入 金	9,406	9,133
未 払 法 人 税 等	270	273
賞 与 引 当 金	930	1,092
役 員 賞 与 引 当 金	－	12
事 業 構 造 改 善 引 当 金	196	－
製 品 保 証 引 当 金	189	448
災 害 損 失 引 当 金	－	104
そ の 他	6,831	7,906
固 定 負 債	31,273	27,627
長 期 借 入 金	22,941	19,674
繰 延 税 金 負 債	3,428	3,039
退 職 給 付 引 当 金	3,919	3,790
事 業 構 造 改 善 引 当 金	－	482
そ の 他	984	641
負 債 合 計	71,416	69,794
純 資 産 の 部		
株 主 資 本	39,100	39,397
資 本 金	5,117	5,117
資 本 剰 余 金	8,359	8,359
利 益 剰 余 金	25,944	26,240
自 己 株 式	△ 320	△ 320
そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額	161	△ 4,050
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	2,365	1,846
為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 2,203	△ 5,897
新 株 予 約 権	73	67
純 資 産 合 計	39,335	35,414
負 債 純 資 産 合 計	110,752	105,208

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期 平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで	前 期 平成23年4月 1 日から 平成24年3月31日まで
売 上 高	105,887	103,800
売 上 原 価	95,533	92,726
総 利 益	10,354	11,074
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	9,356	9,707
営 業 利 益	997	1,366
営 業 外 収 益	693	439
受 取 利 息	24	41
受 取 配 当 金	107	101
ス ク ラ ッ プ 売 却 益	76	65
負 の の れ ん 償 却 額	—	54
為 替 差 益	351	—
そ の 他	133	176
営 業 外 費 用	979	917
支 払 利 息	812	652
為 替 差 損	—	187
そ の 他	167	76
経 常 利 益	711	888
特 別 利 益	175	24
固 定 資 産 売 却 益	4	24
補 助 金 収 入	171	—
特 別 損 失	158	864
固 定 資 産 除 却 損	158	113
退 職 給 付 制 度 改 定 損	—	22
製 品 保 証 費 用	—	471
災 害 に よ る 損 失	—	198
そ の 他	—	59
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	728	48
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	857	727
法 人 税 等 調 整 額	37	△ 2,098
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失（△）	△ 167	1,420
当 期 純 利 益 又 は 当 期 純 損 失 （ △ ）	△ 167	1,420

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期 平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで	前 期 平成23年4月 1 日から 平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,696	6,610
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,548	△ 16,560
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,715	7,609
現金及び現金同等物に係る換算差額	535	△ 304
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 601	△ 2,644
現金及び現金同等物の期首残高	6,688	9,179
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	—	153
現金及び現金同等物の期末残高	6,087	6,688

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

トピックス

Topics

● 米国アーレスティウilminton 工場増築・生産能力増強

当社子会社であるAhresty Wilmington Corporation（アーレスティウilminton、設立1988年6月）は、生産量増加に対応した能力増強のために、2013年4月より工場の増築工事を開始しました。なお、竣工は本年6月中旬頃を予定しております。

今回の増築により、倉庫、出荷のスペースを新たに確保し、既存の工場内に鋳造機及び加工ラインの増設を行います。設備の増設工事は工場増築工事に先行し、本年3月より開始しております。

今後も品質の優れたダイカスト製品を安定的に供給し、より一層お客様のお役に立てるよう取り組んでまいります。

アーレスティウilmintonの概要（2013年3月現在）

所在地 2627 S.South Street Wilmington, Ohio 45177, U.S.A.

敷地面積 170,000㎡

建物面積 30,180㎡（増築面積2,664㎡）

主要設備 ダイカストマシン 22台（増設予定4台）

機械加工ライン 34ライン（増設予定4ライン）



アーレスティウilminton 工場全景と増築エリア



株式情報・会社の概要・株主メモ

Stock Information・Corporate Information

■株式状況（平成25年3月31日現在）

●株式数および株主数

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	21,778,220株
株主数	4,564名

■大株主（上位10名）

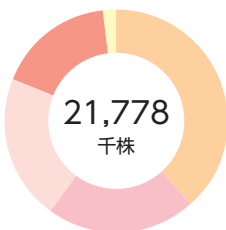
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
高橋 新	915	4.2
(株)三菱東京UFJ銀行	765	3.5
本田技研工業(株)	672	3.1
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	664	3.0
日本軽金属(株)	657	3.0
HSBC PRIVATE BANK (SUISSE) SA HONG KONG BRANCH - CLIENT ACCOUNT	647	3.0
アーレスティ取引先持株会	644	2.9
MSCO CUSTOMER SECURITIES	618	2.8
ザバンク オブ ニューヨーク ジャスディック ノントリーティー アカウント	592	2.7
スズキ(株)	565	2.6

(注) 1. 株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は自己株式(213,847株)を控除して計算しております。

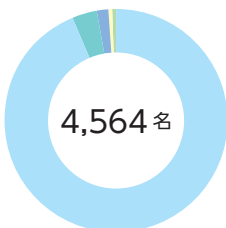
■所有者別株式分布状況

個人その他	38.6%
外国法人	21.6%
その他法人	21.0%
金融機関	17.0%
金融商品取引業者	1.8%



■所有者別株主分布状況

個人その他	93.8%
その他法人	3.6%
外国法人	1.6%
金融商品取引業者	0.7%
金融機関	0.3%



■会社概要（平成25年3月31日現在）

商号	株式会社 アーレスティ
設立	昭和18年11月2日
資本金	51億1,759万円
従業員数（単独）	901名

企業集団の従業員の状況

	従業員数
ダイカスト事業日本	2,113名
ダイカスト事業北米	1,881名
ダイカスト事業アジア	2,252名
アルミニウム事業	53名
完成品事業	29名
全社（共通）	78名
計	6,406名

取締役および監査役（平成25年6月20日現在）

代表取締役社長	高橋 新	常勤監査役	見目 康夫
取締役	石丸 博	常勤監査役	古屋 茂
取締役	野中 賢一	社外監査役	早乙女 唯
取締役	蒲生 新	社外監査役	志藤 昭彦
社外取締役	原 隆		

株主メモ

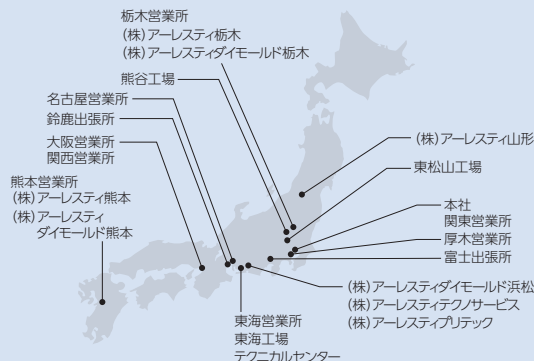
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主日	3月31日
中間配当金受領株主日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711（通話料無料）
同連絡先	
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ahresty.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■事業拠点一覧（平成25年3月31日現在）

国内ネットワーク



海外ネットワーク



当社ホームページ

<http://www.ahresty.co.jp>

当社ホームページの「IR情報」では、株主の皆様へ最新情報をお届けしております。あわせてご覧ください。

Research Service Technology

株式会社 **アーレスティ**

〒164-0011 東京都中野区中央1-38-1 住友中野坂上ビル11F
 TEL.03-5332-6001 FAX.03-5332-6037
 URL: <http://www.ahresty.co.jp>



見やすいユニバーサルデザイン
 フォントを採用しています。



ISO14001:2004認証取得

本社、東海工場、東松山工場、
 熊谷工場、テクニカルセンター、
 株式会社アーレスティ板木、
 株式会社アーレスティ熊本、
 株式会社アーレスティ山形、
 株式会社アーレスティプリテック、
 株式会社アーレスティテクノサービス、
 株式会社アーレスティダイモールド浜松、
 株式会社アーレスティダイモールド熊本、
 株式会社アーレスティダイモールド熊本



ISO9001:2008認証取得

JQA-QMA14412
 本社（但し、商品営業部を除く）、
 テクニカルセンター、東海工場、
 東松山工場、熊谷工場、
 株式会社アーレスティ板木、
 株式会社アーレスティ熊本、
 株式会社アーレスティ山形、
 株式会社アーレスティプリテック



ISO9001:2008認証取得

JUSE-RA-057
 商品営業部及び関連組織（品質管理部、
 経営企画部、ヒューマンリソース部）

